

令和 5 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立伝法小学校  
令和 6 年 2 月

# 大阪市立伝法小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 令和4年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は66.9%。
- 令和4年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は27.9%。

### 中期目標（令和7年度末まで）

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を15%以上にする。

## 2 年度目標（中期目標の達成に向けて）

### 学校の年度目標・全市共通目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上（66.9%）にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上（27.9%）にする。
- 令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- 令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上（67.7%）にする。

### **【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上（77.9%）にする。
- ・令和5年度の小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度以上（76.8%）にする。

### **【学びを支える教育環境の充実】**

- ・令和5年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときにうけた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を10%以上にする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

**【安全・安心な教育の推進】**については、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な回答をした児童は目標に達し、74.7%であった。引き続き、いじめは何があってもゆるされるものではないという認識を更に高める指導を徹底していく必要がある。また、今年度同様に「いじめ（いのち）について考える日」での取組や日常の道徳指導、生活指導を充実させていく。

不登校児童の在籍率については、前年度より増加し3.2%となったが転入の影響もある。不登校児童については、家庭や他機関と連携することで個々の児童の登校状況は改善傾向にある。今後もスクールカウンセラーなどと連携し、不登校児童の登校状況の改善について、包括的な支援を継続していく。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**については、全国学力・学習状況調査における国語科の標準化得点を昨年度と比較すると、全国が1.6ポイント、本市が3ポイント向上しているのに対して、本校は8ポイント向上している。また、無答率や大阪市小学校学力経年調査の児童質問紙からも、本校児童の学習意欲は高まっており、課題が少しづつ改善していることがわかった。しかし、本校の学力向上の課題は依然としてある。引き続き児童の学習意欲を学習結果に結びつけるため授業改善を進め、基礎的・基本的な学力を身につけさせることが必要である。全学年で取り組める読書タイムや家庭学習の啓発等も少しづつ定着しつつある。児童にとって「できる・わかる・楽しい」が実感できる伝統小学校の学びを構築していきたい。

体力に関しては、「運動やスポーツをすることは好きですか」に対しては、肯定的な回答は男子100%、女子76.1%と昨年度を大きく上回り、男子は全国平均を上回った。また、男女とも握力で1ポイント、男子ソフトボール投げで2.83ポイント、女子長座体前屈で3.31ポイント全国平均を上回った。これらは、デンリンピックをはじめとする体づくりを軸にした取組の成果と考える。このように、学びに向かう姿勢につながる体力づくりを今後も継続し、学力・体力の向上に努めていきたい。

最後に、【**学びを支える教育環境の充実**】については、日々の「心の天気」の入力等、児童の学習端末の活用率は順調に増加し、学習端末の月間活用率 100%、日別の活用率約 64%となり昨年度を上回った。今後も教員、児童共に一層の ICT 活用技術の向上を目指し、様々な場面で協働的な活用ができるよう努めていく。

学校閉庁日の設定の他、校務の整理・スマート化を進めたことにより、残業時間が削減し、また、年次有給休暇の取得の推奨により、教員の働き方改革を計画通り進めることができた。

(様式 2)

大阪市立伝法小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和 5 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上（66.9%以上）にする。</li><li>年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</li><li>年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</li></ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【1 - (1) 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>「いじめについて考える日」の取組や、アンケート等の実態把握、自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努める。</p>	B
<p><b>指標</b> 「いじめについて考える日」の取組を年 1 回、いじめアンケートを年 3 回、他学年とのメッセージ交換をする「ぽかぽかの木」を各学期 1 回実施する。</p>	
<p><b>取組内容②【1 - (1) 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>「心の天気」、「アセス」、スクリーニング会議、家庭訪問、スクールカウンセラー等を活用し、子どもの困り感に応じた丁寧な対応と、情報共有、不登校の早期対応・解消に努める。</p>	B
<p><b>指標</b> 不登校の未然防止や早期対応・解消に向けた教員間の情報共有を月 1 回実施する。</p>	
<p><b>取組内容③【1 - (2) 豊かな心の育成】</b></p> <p>毎朝、校門前でのあいさつ指導や、児童会の「あいさつ運動」を実施し、自ら進んで気持ちのよいあいさつができるようにするとともに、規範意識や自律の意識を高める。</p>	B
<p><b>指標</b> 「あいさつ強化週間」を年 3 回実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な回答をした児童は 74.7% であった（肯定的な回答は 93.1%）。その中で各学年、いじめについての取り組みは行ってきた。また、アンケート等の実態把握、ぽかぽかの木や友達のいいとこみつけ等で自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努めることもできた。</p> <p>② 月 1 回児童理解の会議を開いたり、必要に応じて子どもの様子を伝え合ったりすることにより、共通理解をすることができたが、もともと不登校であった児童が転入し、その児童の全てを改善することができなかつたため、全体の不登校率については減少させることはできなかつた。また、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にして取り組</p>	

んだが、不登校児童の出席状況についても改善するには至らなかった。

- ③ 児童会が中心となって取り組んだあいさつ運動を通して、規範意識や自律の意識を高めることができた。

#### 次年度への改善点

- ① 「自分にはいいところやがんばっているところがある。」の項目において肯定的な回答が前期、後期ともに80%は超えているが、後期になると数値が下がる。そこで1年間通しての自己有用感を高められるような取り組みを行っていく必要がある。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、最も肯定的な回答をした児童の割合が高学年になるにつれて低くなっている。これは、いじめはどんなことがあっても許さないという認識を再度確認する必要があると考えられる。
- ② 心の天気やいいところみつけを活用し、子どもたちの実態を把握し、早期発見、解決に努める必要がある。また、家庭との密な連携についても継続して取り組んでいく。
- ③ 進んであいさつをする意識を高めるために、伝法小学校の標語を作ったり、あいさつがんばったクラスに朝会で賞状を渡したりするなどの取り組みを行っていく必要がある。

(様式2)

## 大阪市立伝法小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上(27.9%)にする。</li> <li>令和5年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。</li> <li>令和5年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上(67.7%)にする。</li> <li>令和5年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度以上(77.9%)にする。</li> <li>令和5年度の小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度以上(76.8%)にする。</li> </ul>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容① 【2-(4) 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる授業研究会を全学年で年間1回以上行い、学力向上につながる指導力の向上に取り組む。</p>	B
<p><b>指標</b> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をめざし、全学年において研究授業を年間1回以上、各教員において公開授業を年1回以上行う。</p>	
<p><b>取組内容② 【2-(4) 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を繰り返し着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図り、習熟度レベルの下位層の底上げを目指す。</p>	B
<p><b>指標</b> 音読タイムを週1回、読書タイムを週1回、2・3・4年の放課後学習を週2回実施する。</p>	
<p><b>取組内容③ 【2-(4) 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>学級担任と理科専科、理科補助員が密に連携することで、自然の事物・現象について効果的な実験や観察をしたり、問題解決に適した教材を工夫したりすることで、児童が有用感のもてる授業づくりを行う。</p>	B
<p><b>指標</b> 実験・観察を伴う単元について、ICT機器を1回以上活用して授業を行う。</p>	
<p><b>取組内容④ 【2-(4) 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>C-NETと細やかに連携して、児童が主体的に学びたいと思う外国語活動や外国語の授業を行うことを通して、児童が楽しく外国語に触れ合うことができるようとする。</p>	B

<p><b>指標</b> 外国語活動や外国語の授業に加えて、業間の時間等を活用して、外国語（英語）活動を週2回実施する。</p>	
<p><b>取組内容⑤ 【2－（5）健やかな体の育成】</b></p> <p>子どもの困り感に目を向け、体つくりを軸にした運動を体育科や日々の生活の中に取り入れ、学習に向かう力を育成する。</p>	B
<p><b>指標</b> 体力・運動能力等の調査を年1回、体つくりを軸にした活動のチャレンジタイムやデジリンピックを年2回ずつ実施する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①公開授業を含めた研究授業を計画的に実施し、討議会で意見交流をすることで指導力向上に努めることができ、年度目標についても34.1%と前年度を大きく上回った。</p> <p>②音読タイムや読書タイム、でんでん漢字検定などに取り組むことで学力向上につながった。11月に家庭学習力UP大作戦に取り組み、学年だよりを通して家庭にも知らせたが自主的に取り組む児童が増えたとは言えない。年度目標については、4年生と5年生の国語と6年生の算数で0.1ポイント以上の向上が見られた。</p> <p>③ICT機器を活用することで学習への意欲を高めることができたが、年度目標については64.5%と前年度を下回った。</p> <p>④児童の目に留まる階段に英単語を掲示して児童が楽しく外国語に触れ合う機会を増やしたり、1・2年生もC-NETと関わりながら英語活動楽しんで取り組んだりしたが、年度目標については74.4%と前年度を下回った。</p> <p>⑤計画的に行うことができたが、年度目標については71.1%と前年度を下回った。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①公開授業の計画を早めに決め、一人一回は必ず参観するようにし、研究討議会で出た意見や課題を次の授業で生かせるようにする。（年間を通した研究内容になるようにする。）また、今年度の課題をもとに来年度の研究テーマを具体的にしぼる必要がある。</p> <p>②家庭学習UP大作戦や音読タイムの実施の仕方を検討するとともに、家庭への啓発についてもさらに力を入れていく必要がある。</p> <p>③ICT機器の研修に努めるなど、さらに活用法を工夫たり、実験・実習を充実させたりして、児童の理科への興味関心を高めていく。</p> <p>④英語活動で扱う内容を共通するために資料を整理し、活動を改善することで、さらに魅力的な活動にしていく。</p> <p>⑤行う目的を教職員で再度共通理解した上で継続し、児童の意欲向上を目指していく。</p>	

(様式2)

## 大阪市立伝法小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった			
年度目標	達成状況		
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときにうけた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を10%以上にする。</li> <li>年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。</li> </ul>	<b>B</b>		
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況		
<b>取組内容① 【2-(4) 教育DXの推進】</b> 日々の学習活動において、学習者用端末を活用し、個別最適な学びと、協働的な学びの質の向上をめざす。	<b>B</b>		
<b>指標</b> 日々の学習活動において、学習者用端末をほぼ毎日活用する。			
<b>取組内容② 【2-(7) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> 日々の業務を効率よく実施し、計画的に年次有給休暇を取ることで、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保する環境の実現をめざす。	<b>B</b>		
<b>指標</b> 長期休業中に年次有給休暇を合計10日以上取得する。			
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
<p>① 各学年の児童の実態に応じて、朝学習やコグトレ、授業の中で学習者用端末を活用した。特に低学年では、2学期以降操作も慣れてタイピングやコグトレに一人で取り組むことができるようになった。しかし、教科や単元によって活用しやすい時と活用しにくい時がある。また、協働的な学びにつなげることが難しい。それでも高学年では、ほぼ毎日、低学年では週に3~4回活用することができた。</p> <p>② 長期休業中に学校閉序日を設定し、年次有給休暇を取りやすくした結果、年間10日以上取得することができた。</p>			
次年度への改善点			
<p>①引き続き学習活動において、学習者用端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの質の向上をめざす。協働的な学びのためにどのような活用の仕方があり、どの単元でどのように活用するか、具体的な活用法についての研修が必要である。</p> <p>②教職員が生き生きと働くことができるような環境を今後も整える。しかしながら、年次有給休暇を取得することが子どもたち一人一人に向き合う時間を確保することにはつながらないので、子どもたちに向き合う時間を確保するための手立てを考えることが必要である。</p>			